

2025年7月1日

文部科学省委託

「現職日本語教師研修プログラム普及事業 児童生徒等に対する日本語教師【初任】研修」(2025年度)
特定非営利活動法人メタノイア

「子どものための日本語教育研修(子ども初任研修)」 受講者募集

募集期間 2025年7月1日(火)～7月20日(日)

I 研修について

1 趣旨・目的

特定非営利活動法人メタノイアは、2025年度文部科学省委託事業「現職日本語教師研修プログラム普及事業」を受託し、外国人児童生徒等に対する日本語教師初任研修「子どものための日本語教育研修(略称:子ども初任研修)」を実施いたします。本研修では、文化審議会国語分科会(2019)「児童生徒に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」及び「研修における教育内容」に基づき、基礎的な内容を提供します。その目的は、外国人児童生徒等の背景や言語・学習環境、各地の受入れ・指導体制を理解して、キャリア支援や社会参加という視点をもって子どもたちの生活・学習に関連付けて日本語を教えることができ、マイノリティである子どもたちのエスニシティやアイデンティティを考慮した教育・支援を行うことができる人材を育成することです。

本団体は本事業で、児童生徒の教育・支援を行う初任日本語教師の育成を通じて、各地域の日本語教育・支援活動に貢献することを目指します。

2 研修実施期間

令和7(2025)年8月7日(木)～令和8(2026)年2月1日(日)

3 実施方法

(1) 概要

①遠隔による実施

遠隔(以下、オンライン)により研修を行います。「オンデマンドの学習」と「オンライン同時双方向の対面学習(Web会議システムのZoomを利用)」を組み合わせた複合型の学習形態です。なお、実習に関しては、教育・支援現場の視察等を実施する可能性があります。状況に応じて、最終的な実施形態を決定します。

②6つのクールに分けて実施

8月から2月上旬までの約6か月の研修期間を、6クールに区分して実施します。各クールは、「オンデマンドの動画視聴による学び」「受講者各自の課題の遂行」「スクーリング(オンライン同時双方向対面学習)」で構成されます。スクーリングでは、全体講義を通して事前に取り組んだ課題に対して講師からの補足やフィードバックを行うほか、各自が取り組んだ課題についてグループでディスカッションをするなど、グルー

プワークを通して知識を深めます。この他、2 回に分けて「実習」を実施します。

(2) スケジュール

①第 1～6 クールの期間・実習時期

<スケジュール(目安)>

クール	ガイダンス	第 1 クール	第 2 クール	第 3 クール	第 4 クール	第 5 クール		第 6 クール
	8 月 7 日	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
時期		スクーリング						
		実習						

②スクーリング・実習の日程

<スクーリング・実習の日程>

スクーリング等	日程	時間
オリエンテーション	8 月 7 日(木)	19:00～20:00
スクーリング 1	8 月 24 日(日)	9:30～12:30
スクーリング 2	9 月 21 日(日)	9:30～12:30
スクーリング 3	10 月 19 日(日)	9:30～12:30
スクーリング 4	11 月 24 日(月・祝)	9:30～12:30
実習 1～3	11 月 24 日(月・祝)	13:30～16:30
スクーリング 5	12 月 14 日(日)	9:30～12:30
実習 4～6	1 月 11 日(日)	9:30～12:30
スクーリング 6	2 月 1 日(日)	9:30～12:30

※実習に関しては原則上記日程で実施しますが、実施形態・内容により変更の可能性があります。

(3) 研修活動の構成:60 単位(講義・演習 54 単位+実習 6 単位、1 単位時間=45 分)

1) オリエンテーション

8 月 7 日(木) 19:00-20:00 に、全受講者を対象に本研修コースの研修内容と実施方法等についてオンラインで説明します。

2) 講義・演習(54 単位)

1 クールを 9 単位時間とし、オンデマンド学習(3 単位)・課題の遂行(3 単位)・スクーリング(=オンライン同時双方向対面学習)(3 単位)で構成されています。6 クールで 54 単位となります。

・オンデマンド学習では、動画教材による講義(視聴)等を行います。(3 単位)

・講義後、スクーリングの講師が指定する課題を遂行します。(3 単位)

- ・課題提出後、オンラインによる対面同時双方向のスクーリングで、課題の振り返りや発展的学習を行います。(3 単位)

3) 実習 (6 単位)

6 単位時間実施します。

<実習の内容・方法の例(2020～2024 の例)>

- ・動画で、学校・地域の教室における教育・支援の実際の様子を観察
- ・学校や地域支援者から実践の様子を聴く(現場理解)
- ・オンラインで、支援教室で学ぶ子どもたちにインタビュー
- ・オンライン(Zoom)で、模擬授業を実施(学習指導案作成・模擬授業の実施・振り返り)等

4 研修内容(シラバス:講義内容(動画教材))

児童生徒を対象とする日本語教育の基礎的内容に関する講義を受講します。受講方法は、オンデマンドによる動画教材の視聴です。講義内容に関する課題の提出が求められます。

スクーリングでは、受講者が提出した課題をもとに、各クラスにおける子どもの日本語教育・支援の状況等に関する発展的な議論を行います。

なお、動画教材は 2020 年度～2023 年度に公益社団法人日本語教育学会が文化庁委託「日本語教育人材の研修プログラム普及事業」として作成したリソース「Himawari」を利用させていただいております。

■Himawari(講義一覧):<https://himawari-jle.com/lectures/>

<シラバス:講義(動画教材)内容>

	No.科目	項目	本数
第1クール	1.外国人児童生徒等の背景・現状・課題(6 単位)	1 外国人児童生徒等の現状と課題 2 外国人児童生徒等の社会的・文化的背景 3 外国人児童生徒等施策	2
		4 地域の現状と課題(外国人集住地域・散在地域) 5 学習権・不就学 6 多文化共生	
	2.外国人児童生徒等の支援体制とネットワーク(3/6 単位)	7 地方自治体の受け入れ体制 8 学校の教育体制 9 地域の支援体制	1
第2クール	2.外国人児童生徒等の支援体制とネットワーク(3/6 単位)	10 地域のリソースと社会的ネットワーク 11 保護者との連携・協力 12 エスニック・コミュニティ	1
	3.外国人児童生徒等の文化適応(6 単位)	13 異文化適応 14 異文化間能力 15 自文化中心主義・文化相対主義 16 文化間移動とアイデンティティ 17 生育環境 18 社会化	2

第3クール	4.外国人児童生徒の言語習得と認知発達(6単位)	19 発達段階と言語習得 20 バイリンガリズム 21 母語・継承語・第二言語	2
		22 生活言語能力と学習言語能力(特別支援のニーズを含む) 23 リテラシーの発達 24 言語能力の測定(筆記テスト、DLA 等)	
	5.外国人児童生徒等の日本語教育のコースデザイン(3/6 単位)	25 コースデザイン 26 「特別の教育課程」による日本語指導 27 評価の対象と方法	1
第4クール	5.外国人児童生徒等の日本語教育のコースデザイン(3/6 単位)	28 初期指導(サバイバル日本語・日本語の基礎) 29 中期指導(技能別日本語) 30 日本語と内容(教科等)の統合学習(JSL カリキュラム等)	1
	6.外国人児童生徒等の日本語教育の方法と実際(6/12 単位)	31 事例分析 32 子どもの日本語教育の方法 1(幼児・小学校低中学年の子ども対象) 33 子どもの日本語教育の方法 2(小学校高学年以上の子ども対象) 34 教材・教具の活用 1(体験型教材・教具) 35 教材・教具の活用 2(教科書等の活用・著作権) 36 教材・教具の活用 3(ICT)	2
第5クール	6.外国人児童生徒等の日本語教育の方法と実際(6/12 単位)	37 子どものための音声指導 38 子どものための文字指導 39 子どものための文法指導 40 子どものための語彙指導 41 子どものための文章・談話指導 42 言語生活	2
	7.社会参加のための日本語学習支援(3/6 単位)	43 キャリア教育 44 ロールモデル 45 市民性教育	1
第6クール	8.社会参加のための日本語学習支援(3/6 単位)	46 進路選択支援 1(進学) 47 進路選択支援 2(就労) 48 社会活動への参加支援	1
	9.外国人児童生徒等のライフコースと日本語教師の成長(6 単位)	49 ライフコース 50 エンパワーメント 51 人権・社会的正義・公正さ 52 実践の共有 53 対話と省察 54 専門家との連携・協力	2

<研修スクーリング担当講師>

講師：齋藤ひろみ（東京学芸大学教授）

講師：高柳なな枝（地球っ子クラブ 2000 代表）

講師：牧原紀子（宇都宮大学非常勤講師）

講師：佐屋麻利子（神奈川県立相模向陽館高等学校教諭）

講師：米本和弘（東京学芸大学准教授）

講師：浦久仁子（堺市立三原台中学校教諭）

講師：市瀬智紀（宮城教育大学教授）

講師：河野あかね（つくばインターナショナルスクール日本語教育ディレクター）

講師：和泉元千春（奈良教育大学教授）

講師：松永典子（独立行政法人国際協力機構 九州・協力隊相談役）

II 受講者の募集について

1 募集人数

定員：100 名

応募者数が定員数を上回った場合、2.に示す応募資格・条件に鑑み、申請内容をもとに選考を実施します。

7 月末日までに、選考結果（受講の可否）を通知します。※先着順ではありません

受講には、選考結果通知の受領後、8 月 4 日（月）までに、受講料の納入と同意書の提出が必要となります。

2 応募資格と条件

(1) 応募資格

- ・いわゆる「日本語教育の有資格者」で、児童生徒に対する日本語教育の経験が 0～3 年（初任）の者。
または、これに準ずる者。

<「日本語教育の有資格者」の例>

- ・登録日本語教員の資格をお持ちの方
- ・大学又は大学院において日本語教育に関する教育課程を履修して 45 単位以上を修得し、かつ、当該大学を卒業又は当該大学院の課程を修了した方
- ・大学又は大学院において日本語教育に関する科目の単位を 26 単位以上修得し、かつ、当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した方
- ・公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する日本語教育能力検定試験に合格した方
- ・学士の学位を有し、かつ、日本語教育に関する研修（日本語教師養成講座）であって適当と認められるものを 420 単位時間以上受講し、これを修了した者
- ・現在、または将来的に児童生徒の日本語教育に貢献する意欲がある者。

※受講については、これまで本研修（昨年度及び公益社団法人日本語教育学会実施の「子どものための日本語教育研修」2020～2023 年度実施）の受講経験のない方に限らせていただきます。

(2) 応募条件

1) オンラインの同時双方向対面研修、実習に出席できること。

基本的にはオリエンテーションを含め 6 回のスクーリング、実習の全てに参加いただきます。

2) オンライン上の研修を実施できる環境とスキルを有すること。

Web 会議システム (Zoom) による研修への参加やクラウド上での情報交換のための通信環境については、受講者ご自身で整えていただきます。

3) 実施した課題の共有や交流の場では、互いの意見を尊重しつつ、積極的に参加すること。

スクーリング・実習では、本名・カメラオンでご参加いただきます。

4) 母語、国籍は問いませんが、日本語でのグループでの作業や話し合い等に支障がない程度の日本語の力を有することを条件とします。

5) 多様な地域からご参加いただくため、応募者の居住地等を選考の要素として考慮します。

6) 知的財産権、人格権（個人情報の守秘や肖像権の配慮等）について理解し、行動すること。

例えば、本研修で提供する著作物の無断流用等は著作権侵害に当たり、認められません。

7) 参加にあたり、研修実施の妨げとなるような行為や言動を慎むようお願いします。

※受講決定後に、上記の条件に関する同意書をご提出いただきます。

3 受講料

受講料は、10,000 円です。

遠隔による研修において、受講する上で必要な環境の整備・通信費などは各自のご負担となります。

受講料の支払い方法等については、受講決定後に改めてご連絡します。

なお、途中で受講を辞退された場合なども含め、一度お支払いいただいた受講料の返金は致しかねますのでご了承ください。

4 修了要件・修了証

次の要件を満たした研修受講者に修了証を授与します。

- ・研修に 2/3 以上参加していること。
- ・提出課題、及びスクーリングの活動において、目標を概ね達成できていること。
- ・実習（6 単位）に参加して課題を提出していること。

5 応募方法

下記の URL より Google フォームに必要事項を記入して、送信してください。

★募集期間:2025年7月1日(火)～7月20日(日)

■「子どもの日本語教育研修(子ども初任研修)」受講申込フォーム

URL:<https://forms.gle/35AaVKxghFhdSHTCA>



6 問い合わせ先

特定非営利活動法人メタノイア「子どものための日本語教育研修事務局」

〒121-0822 東京都足立区西竹の塚 2-1-10 岡田ビル 3F 東

E-mail: shonin@metanoia.or.jp (担当:矢口)

※お問い合わせはメールでお送りくださいますようお願いいたします。お問い合わせの回答に少々お時間がかかる場合がございます。ご迷惑をおかけいたしますが、何卒よろしくお願いいたします。